

読売

# 教育ネットワーク

社会はまるごと学校——  
すべての大人が先生です



ケンブリッジ流ラグビー指導「おもしろかった!」(詳細は4面参照)

巻頭特集

## シンポジウム「戦国武将と読書」

2・3

レポート

ラグビーと英語 ケンブリッジ流を学ぶ

慶應高/埼玉県立浦和高 4・5

麗澤大 ホスピタリティシャツで「おもてなし」 6

明治大学×サッポロビール 「飲酒の注意点」新入生に 7

まわしよみ新聞 8 京都で高校NIE大会 9 お知らせ・短信 10

リレーエッセー「学生の自然生息地」11 読売新聞に「えいご工房」登場 12

2015.4

Vol.4



# シンポジウム「戦国武将と読書」



## 読書の喜び 若者にアピール

読書の大切さを訴えるシンポジウム「戦国武将と読書」(主催「東京都、文字・活字文化推進機構、特別協力「活字文化推進会議、読売教育ネットワーク」)が3月22日、東京・文京区の東洋大学白山キャンパスで開かれた。小和田哲男・静岡大学名誉教授の基調講演のあと、「若者と読書」と題したパネルディスカッションが行われ、会場を埋めた約600人が熱心に耳を傾けた。(本記事は4月15日読売新聞朝刊掲載記事の再録です)

パネルディスカッションのパネリストは、東大史料編纂所の本郷和人教授と、歌手でタレントの中川翔子さん。コーディネーターは読売新聞の橋本五郎特別編集委員が務めた。

### ◆過去も未来も宇宙にも

テーマが「若者と読書」ということで、最年少の中川さんが口火を切り、読書に親しむきっかけになった本として、筒井康隆著『家族八景』を挙げた。「世の中は闇に満ちているんだってことを、思春期に教わったことが、とてもうれしかった」と回想、「本を読むことで、過去にも未来にも、宇宙にも行くことができる。一文字一文字が自分



中川翔子さん

の経験値になり、想像力をレベルアップさせることができる。読まないで寿命がもったいない」と熱く読書の喜びを語った。

### ◆読まないで損です

本郷教授も「先人たちが自分の英知を余すところなく書いてくれたものが、たった数百円で手に入る。読まないで損です」と訴えた。



本郷和人 教授

### ◆漫画を入り口に

本郷教授は「例えば、人気漫画『ドラゴンボール』を読んで

ここで、大学生の4割が全く本を読まないという、全国大学生生活協同組合連合会の昨年の調査結果を、橋本編集委員が紹介。どうしたら若い世代に本を読んでもらえるのか、意見を求めた。

いるような子には『西遊記』を勧めたい。入り込みやすいだろうし、全体を読めば、中国やインドの神様、仏様のことやいろんな知識が得られます」と漫画を入り口にすることを提案。中川さんも「猫が登場するおもしろい短編を集めた『にゃんそろじ』を編みました。猫好きな小学生や中学生が読んでくれればという願いを込めて」と自身の実践体験を披露した。

### ◆紙の本も電子書籍も 読める幸せな時代

スマホが読書の時間を奪っているという指摘も話題になったが、中川さんは「今は紙の本も電子書籍も読める幸せな時代。ネット書店のレビューが本を買うきっかけになることもある」と肯定的に評価した。

最後に、橋本編集委員が3万数千冊の蔵書を寄贈して、故郷の秋田県三種町に開設した「橋本五郎文庫」について紹介。「あまり娯楽がなかった住民が、こ



橋本五郎 特別編集委員

こに来て本を読むようになりまして」と報告すると、中川さんは「お話をうかがうと、ユートピアですね」と絶賛。関連な議論に会場からも大きな拍手が巻き起こった。

### ◆本屋に行くと、もっと本を読みたい

来場していた横浜市の高校生、柳詩織さん(16)は「今まで電子書籍と紙の本のどちらがいいのかわからなかったけど、とにかく本屋に行って書棚を眺め、もっと本を読んでみようと思いました」と話していた。



小和田 哲男 おわだ・てつお

1944年静岡市生まれ。静岡大学名誉教授。専門は日本中世史。戦国時代史に詳しく、著書に「後北条氏研究」「近江浅井氏の研究」など。NHK大河ドラマでは、「軍師官兵衛」(2014年)などの時代考証を担当。

先人の成功例や失敗例から、為政者としてのあり方を学んでいたのだろう。

伊達政宗の愛読書が『源氏物語』というのは意外かもしれない。彼は隠居後、城の襖絵にその一節を書写するほどだった。王朝文学への耽溺は、生涯を戦乱に明け暮れた自分へのご褒美だったのだろうか。

有名な武将たちは総じて勉強家で、本によって高い教養やリーダーシップを身につけていった。皆さんもぜひ若いうちから本に親しんでほしい。



熱心に聴く聴衆

## 基調講演 戦国武将 教養も武器

戦国武将は戦上手の武人というイメージが強いが、子供のころから本に親しんだ武将は多い。例えば毛利家に仕えた玉木吉保は、自分の読書遍歴を『身自鏡』という自叙伝として書き残している。当時の武将は、人間としての生き方のほかに、領国経営やリーダーシップを学びたいという気持ちで書を手にとったのだろう。

北条早雲は、下剋上の代名詞のように言われるが、京都の名門、伊勢氏につながる家系で、非常に勉強家だった。その愛読書が南北朝内乱を描いた『太平記』。実際の合戦の参考になるので、多くの武将が読んでいたようだ。早雲は家訓で「本を懐に入れて、暇があれば読むように」と子供や家臣に言い残している。

毛利元就は三本の矢の逸話から「組織経営の達人」の印象が強いが、注目したいのは『古今和歌集』を愛読していたことだ。当時の武将は歌会や連歌会によく参加しており、教養としての和歌が重視されていたことがわかる。

黒田如水(官兵衛)は昨年のNHK大河ドラマの主人公。智謀で恐れられた彼の愛読書が『孫子』だった。官兵衛が秀吉の先手として播磨の福原城を攻めた時、『孫子』の兵法を応用して戦った記録が残っている。

また、「駿河文庫」という私設図書館を作った徳川家康は『吾妻鏡』と『源平盛衰記』を愛読した。秀吉後の天下を狙っていた家康は、鎌倉幕府を樹立した源頼朝に私淑していた。



# ラグビーと英語 ケンブリッジ流を学ぶ

英国ケンブリッジ大のラグビー部OBと現役選手が4月、読売教育ネットワーク参加の2高校で特別プログラムを行った。4日に慶應義塾高（横浜市）でラグビー部員を指導。7日には埼玉県立浦和高で英語セミナーを開くなど、文武両道で交流した。英語教育のプログラムを行うため来日した同大ラグビー部元主将のスチュアート・エルさんが、両校に打診して実現した特別企画だ。

ケンブリッジ大 × 埼玉県立浦和高

ケンブリッジ大 × 慶應高

**英語漬けの日**  
ケンブリッジ大の講師たちと英語漬けの一日に挑戦。埼玉県立浦和高で行われた春季英語特別セミナーには同高英語部員や今夏、海外留学する生徒12人が参加した。招かれたケンブリッジ側も、神学を教える講師や、アマゾンで動物学のフィールドワークに熱中したOBなど多彩なキャリアの6人がそろう、12人に英語スピーチのスキルを指導した。



夢について英語で語る生徒のスピーチを熱心に聞くケンブリッジ大OBの講師(左)。この後「Why?」を連発し、スピーチを修正した。

**セミナーには同高外国語補助指導教員（ALT）2人も参加し、午前中は生徒たちが準備してきた課題スピーチ「将来の夢」をマンツーマン指導した。**  
国際英語教員資格を持つタチアナ・ダミヤノビッチさんは「文章の構成を変えるだけで、訴える力は変わる」と話し、生徒と相談しながらスピーチを添削。発音の誤りを細かく指摘された生徒は、「これほど丁寧に教えられたのは初めて」と感動した様子だった。

ケンブリッジ大学講師が伝授  
**Small Talk を生かした会話上達法**

Step1	まず握手	相手の目を見て笑顔、が基本 遠慮がちな握手ではなく、しっかり握ろう！
Step2	名前で呼ぼう	親密になるには名前を覚え、 名前で呼ぶことが大切
Step3	いざ Small Talk	天気、仕事、家族、時事ネタなど、 様々なシーンに対応できるよう練習
Step4	Small Talk 後に本題へ	世間話で親密になったら、本題へ Small Talk 上手は世界中にネットワークを作る

**Small Talk を生かそう！**  
午後は「どうしたらスムーズに話せるようになるのか」を追求するワークショップ。  
初対面の人とあいさつする際のスキルについて講師のスコット・アネットさんは「スモール・トーク（Small Talk）、いわゆる、ちょっとした世間話が信頼をつむぐ一歩となる」と解説、会話へ発展させる流れを説明した。

**「声が小さい」**  
一方、ほぼ全員が注意されたのは声量だ。「君たちは声が小さすぎる。私とどちらが大きな声を出せるかな？」と、講師と生徒で勝負する一幕も見られた。  
指導を受けた後のスピーチ発表では、「アイコンタクトができるようになった」「イントネーションの強弱が上達した」と評価される生徒が続出。「億万長者になります」と宣言し、やんやの喝采を受ける生徒もいて、ケンブリッジ流スピーチに教室は笑いつつまれた。

**生徒たちは自信をつかんだ**  
セミナーを見守った同高ALTのスコット・エイキンさんは「これほどリラックスして英語を話す生徒は見たことがなかった。自信をつかんだのだと思う」と振り返った。  
2年生の土山光陽さんは「英語は教科の一つとして考えていなかったが、考えが変わった」と話し、JR浦和駅まで講師たちを見送った。

ラグビー部員たちもセミナーに顔を出し、30分ほど大講師たちと交流した。同高は2013年、54大会ぶりに全国大会に出場した古豪。ケ大ラグビー部OBや現役選手でもある講師たちから握手を求められた部員たちは感激して「オーラがすごい。来年はラグビーも教えてほしい」と話していた。

**密集戦で優位に立つには「コミュニケーション」**  
「Boys, communication! A silent team can never, never win!」  
小雨が降る横浜市港北区の慶應義塾高グラウンドで、ケンブリッジ大ラグビー部の2軍監督が同高ラグビー部員40人に檄を飛ばした。この日、特別コーチとして訪問した4人は全員がオックスフォード大との対抗戦出場経験者。日本の社会人ラグビーでも活躍したエルさんのほ



か、現役のスラムハーフらがグラウンドに集まった。  
同高は今年1月、ラグビー・全国高校大会3回戦の対御所実業戦でロスタイム、ボールを奪われて逆転負けを喫している。エルさんへの要望も「タックルを受けた後の、ボールをめぐるせめぎあい強化」だった。  
**英語で質問する部員も**  
グラウンドでは、エルさんが複数のメニューを用意し、部員たちはそれぞれに順番に挑戦した。海外でのプレー経験があ

**「世界に通用する」実感**  
全国大会にフルバックとして出場した同高3年で副キャプテンの高木一成さんは「英語で教わるのは新鮮だった。この経験を試合に生かしたい」と笑顔で話した。2年の大谷陸さんも



同高の稲葉潤監督は、「英語で学ぶことに意味がある」と必要最低限の通訳しか行わない。英語の指導を理解しようと、生徒たちは必死になった。  
2013年の対オックスフォード対抗戦に出場したパトリック・カルバートさんは、「正しいタックル」を解説。「ひざ下を切るような感覚で狙うんだ。一撃で倒せばボールは奪える」と基本を説明した後、回転をかけるタックルを実演。部員たちに「さあ、君たちが挑戦する番だ」と促した。  
ラックとモールを想定したメニューでも熱い指導が繰り返された。一つひとつのプレーの目的や意味を説明し、ときには練習を止めて「パワーのロスが大きすぎる。どう力を加えたらいいのかをもっと考えよう」と要求。「Think and attack」を重視するケンブリッジ流コーチングに生徒たちも次第に反応して、英語で質問したり、部員同士で工夫したりし始めた。

「僕らが目指すラグビーが世界でも通用することが分かった。攻め続けるのか、それともポイントを作って攻撃を再構築するべきか。その判断が大切だ」という指摘は発見だった」と振り返った。  
日本にラグビーが紹介されたのは1899年、ケンブリッジ大で学んだ英国人エドワード・クラークさんが慶應義塾の学生たちに教えたのが原点とされる。エルさんは「ルーツの精神が息づく高校で指導できたのは光栄なこと。生徒たちは素晴らしいスピリッツを見せてくれたし、ボールのハンドリングの精度と判断を磨けばもっと強くなる」と話していた。





アルコールを含ませた絆創膏を貼り、肌の色の变化を見る学生たち



酔う仕組みを説明する酒井さん

# 「飲酒の注意点」新入生に

明治大

×サツポロビール

200人が  
アルコールパッチテスト

サツポロビールは3月30日、明治大学の新生入生などを相手に出前講義「酒活」を行い、未成年者の飲酒を戒めた。「酒活」は、社会人デビュー前の「就活（就職活動）」になぞらえ、お酒に対する正しい知識を持つと呼びかける講義。

「お手伝いしましょうか？」と英語で書かれたTシャツを着て、困っている外国人観光客を助けよう——麗澤大学の大学生ら約45人が3月30日、東京・台東区の浅草でボランティア活動「ホスピタリティプロジェクト」に取り組んだ。

この活動は、教室を飛び出して、外国人と実際に英語で話す機会を作り、さらに日本を紹介することで、日本の良さを再発見しようとして2014年8月に始まり、今回で4回目。大学内の掲示や学内SNS、授業などで参加者を募集しており、今回を含め延べ約160人が参加した。

悩みつつも奮闘

大学生たちは5、10人程度のグループになり、日本語と英語の地図を手に、行き先を決めて活動を開始。東武鉄道浅草駅前まで活動したグループは、「お手伝いしましょうか？」「私たち、ボランティア活動をしているんです！」などと、英語で外国人観光客に声をかけていた。

「No, thank you」と断られる場面もあったが、「レストランを探しているんだけど？」「両国への行き方は？」「明日、タクシーに乗りたいたんだけど、ホ

の違いなどについて話せた。フランスに興味があったし、次回も参加したい」と意欲的だった。

教室ではできない実践

この活動を担当している同僚部の田中俊弘教授は「うまくいくのか、参加者がいるのか手探りのスタートだったが、次第に人数が増えていった。1回話して通じなくても、やっているうちに伝わって、学生の表情が変わっていく。教室ではできない実践の効果を感じる」と話している。



英語で書かれた地図を示しながら道案内する学生たち(右の2人)

テルに呼んだほうがいいか、それとも走っているのを止めたほうがいいか」などいろいろな相談を受け、悩みながら答えていた。

活動終了後には、「写真を撮ってあげたら、記念の品をもらった。お返しできるような折り紙を用意しては」などの建設的な意見や、「読んだおみくじは、どのような感じだったのかと聞かれた。作法の説明が難しい」などさまざまな反省も。

午前中はドキドキしたけど

……参加の学生

半年ぶり、2回目の参加だという外国語学部2年の松本佳連さん(19)は「午前中はドキドキしてなかなか話しかけられなかった」というが、午後の活動では、フランスから来た女性に、スカイツリーと桜を同時に見られる場所を案内することができ、「日本とフランスの文化



明大では毎年、新入生が入学前に交流するイベントを行ってきたが、「新入生に正しい知識を持ってほしい」と今回初めて「酒活」をプログラムに組み込んだ。入学式を1週間後に控えたこの日、東京都杉並区の明大和泉キャンパスの教室で、約200人の新入生がアルコールを含ませた絆創膏を腕に貼って、飲める体質か否かを判定するアルコールパッチテストを受けた。

サツポロビール総務部の酒井洋さん(56)は、絆創膏をはがした後の肌の色を見るように促し、「皮膚がすぐに赤くなった人は『お酒が飲めない人』。鍛えても強くなることはありません」と説明した。

「雰囲気は流されて  
飲まない飲ませない」

文学部に入學する村越一幸さん(18)は「お酒に弱い体質と分かったので、20歳になってもコンパでは気をつけます」と話した。商学部に入る田中恵規さん(18)も「肌が赤くなったので、飲める年齢になっても、たくさん飲まないように気をつけます」と話した。新入生からは「ノンアルコールビールは飲んでも大丈夫？」「第3のビールって何？」などの質問も上がった。

この日の講義では未成年者の飲酒やイッキ飲み危険性に加え、酔う仕組みやアルコールの代謝時間なども説明された。同席した商学部2年(新3年)の青島龍之介さん(20)は「雰囲気は流されて飲んだり飲ませたりしてはいけないことが分かった」と話す。

市民団体「イッキ飲み防止連絡協議会」の調査によると、過度な飲酒による大学生の死亡事故は後を絶たず、2012年に5件、13年に4件、14年に3件起きている。同協議会の13年の調査では、飲酒に関する学生の指導は約6割の大学が行っているが、入学ガイダンスのみの指導が多く、「飲酒の危険性を十分に訴えるには時間が足りない」という教員の声もある。半数以上の大学は学内での飲酒を禁止しているが、学外には目が届かないとの課題もある。

明大でも新入生ガイダンスなどで教員らが飲酒に関する注意を呼びかけているが、松橋公治副学長は「専門家の具体的な説明は説得力があり、飲酒を断る動機付けにもなる」と説明する。酒井さんは「お酒を危険な飲み物と避けるのではなく、正しい知識を持って自分にあった飲み方・付き合い方をして欲しい」と話している。

麗澤大

ホスピタリティインシャツで「おもてなし」





大会の様子をまとめた号外新聞を発行した滋賀県立彦根東高校の新聞部員たちにアドバイスする伊東広路・読売新聞大阪本社写真部記者(右から2人目) 3月29日、京都市の京都学園高校で

滋賀県立彦根東高校新聞部の生徒たちが取材してまとめ、即日、会場配布した号外新聞には、佐藤専任部長が講演する様子も掲載された



# まわしよみ新聞

## みんなで話し合っ作る紙面

小中高校の教員が集まり、学校での新聞活用について学ぶ「NIE土曜サロン」が3月28日に読売新聞東京本社で開かれ、話し合っ記事再構成する「まわしよみ新聞」を体験した。

### 大阪の陸奥賢さん考案

「まわしよみ新聞」は、大阪でまちづくりなどの活動をしている陸奥賢さんが考案したものである。「まわしよみタイム」として、4人程度のグループで、持ち寄った新聞から、各自が気に入った記事を切り抜く。「プレゼンタイム」では、切り抜いた記事の中から3つについて、選んだ理由や内容などを順番に紹介し、感想を言い合う。

「新聞作りタイム」では、各自がプレゼンした記事から「今日のトップ記事」をグループで3つ選び、画用紙などに貼っていく。最後に「まわしよみ新聞」というタイトルと、日付、切り抜いた場所などを記載する。所要時間は60〜100分だが、紹介する記事の数などで調整でき

参加者が作った力作



まわしよみ新聞を行うことで、自分の世界を広げることができ、記事をもとに話し合うことでコミュニケーション・ツールとして役立てたり、プレゼン力やメディア・リテラシーを養ったりする効果があるという。

### 羽生選手の記者、飛行機墜落事故

この日は、鹿野川喜代美・本社NIE企画デザイナーが、まわしよみ新聞を取り上げ、参加した15人は、3、4人のグループに分かれ、当日の読売新聞朝刊を読んで、各自が気になる記事を選んで、気になった理由を思い出話を交えながら説明したり、意見を交わしたりした。

記事紹介の後、上位3つを画用紙に貼り、コメントなどを添え自分たちの「まわしよみ新聞」を完成させ、各グループの代表が発表した。

羽生結弦選手の記事をトップにレイアウトしたグループや、ドイツの飛行機が墜落した事故の記事を選んだグループなど、様々なまわしよみ新聞が並んだ。

### 参加者「早速やってみます」

参加した先生からは「同じ記事を選んでいる人がいて嬉しかった」や「楽しくできました。学校で早速やってみます」などの声がかかれた。



まわしよみ新聞を作る参加者たち

# 京都で高校NIE大会

『新聞を読む高校生』をテーマにした高校NIE研究会全国大会が28、29日の2日間、京都市の京都学園高校で行われ、全国から集まった延べ200人の高校教諭らが新聞を活用した学習(NIE)について意見を交わした。大会では、滋賀県立彦根東高校の新聞部が大会の様子を取材して号外新聞を発行した。

### 新聞生かした授業例 7校の教諭が発表

今年で13回目の大会では、毎年、各地から集まった高校教諭が新聞を活用したさまざまな授業例を紹介する。

今回は、「平家物語」をテーマにした岡山県立岡山城東高校・京都学園高校・奈良女子大附属中等教育学校の国語連携授業のほか、大阪府立枚方高校の生物授業など、7校の教諭が新聞を使った授業例をとり上げた。

全国紙4社による教育活動発表コーナーも初めて設けられ、29日には、読売新聞教育ネットワーク事務局の佐藤伸専任部長が「新聞社を上手に活用する方法」と題し、社の教育活動を紹介した。新聞記事を使った問題

を毎週配信している読売ワークシート通信については、政治、社会、文化、教育、国際の各部分身の記者が毎週、全国各地の地方版にも目を通しながら自分の得意分野を生かして作っていることを説明した。

また、企業と小中高校を結ぶ出前授業のマッチングなど、昨年10月に発足した読売教育ネットワークのさまざまな取り組みについてもとり上げた。参加者からは「読売新聞のワークシートがどのように作られているのかを知ることができて、改めて授業での教材化を考えていきたい」という声も寄せられた。

新聞のよさを見直すべきだと感じた」と締めくくられ、閉会式で参加者に配られた。『プロの話、勉強になった』彦根東高新聞部 大会終了後には、同校新聞部員たちが伊東広路・読売新聞大阪本社写真部記者を囲み、撮影のコツなど新聞作りについてアドバイスを求める場面もあった。休みを利用して参加していた伊東記者が、大会取材中の同校新聞部員に「新聞の写真は縦が多い。撮影時に意識してみてもいい」と声をかけたのがきっかけで行われた、即席の新聞制作講座だった。



「なぜ米国に留学して勉強しているの？」と、日本の友人たちからたびたび聞かれる。だが、困ったことに、彼らを納得させられるような答えがなかなか思いつかない。その理由はシ



海外で学ぶ・リレーエッセー④  
**ブラウン大「学生の自然生息地」**

麻布高校卒・ブラウン大学2年 長谷川翔亮さん



ンプルだ。私の通うブラウン大学と日本の大学とはあまりにも異なり、ブラウンの魅力も術が見つけられないのだ。ブラウンに入學するまで、5か月ほど東大に通った。日本の大学生活は、社会に出るまでの「モラトリアム期間」とみなされ、学生たちはゆるゆると自分の夢や目標を探す。でも、ここブラウンは驚くほど厳しい。競争社会そのものだ。毎週、書籍や資料を読む量は300ページに達し、さらに論文執筆の宿題も出る。例えば、「シベリア東部は開発できるのか？」という

テーマの論文も書かされた。学生たちは、早朝から深夜まで課外活動にも挑戦する。スポーツならば他大学との対抗戦、地域奉仕の活動だ。そして、様々な学生組織に身を投じている。トップ・スクールに「いる」だけでは満足しない。ブラウンの学生たちは、成功への渴望に、単純に駆り立てられているのだ。日本の友人たちは聞いてくる。「なぜ、ブラウンの学生のように競争する必要があるのか？なぜ、そんな厳しい環境にいないといけないんだい？」と。



長谷川翔亮さん(本人提供)

海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェロシップ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留学フェロシップの詳細はウェブサイト (<http://ryu-fellow.org>) へ。

News  
**中高進学相談会に1万3000人**

中学・高校進学相談会「よみうり GENKI フェスタ 2015」(主催・読売新聞東京本社、特別協賛・SAPIX、協賛・家庭教師のトライ、カシオ計算機、城南信用金庫)が3月29日、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開かれ、親子連れなど約1万3000人が訪れた。

首都圏の中高一貫校を中心に約200校が個別相談ブースや学校案内資料コーナーを設置した。「若者の自己肯定感——国際比較から見えるもの——」と題した特別講演を行った開成中学校・高校(東京)の柳沢幸雄校長は、強い自信と自己肯定感に満ちた世界の若者に比べ、日本の若者は自信が足りず周囲ばかりを見ている、と分析。自ら発言し知的刺激に反応しなければ世界と競争できないと強調した。

また同校長は、英語には人をけなす言葉が少ないことを例に挙げ、保護者は叱るより、褒めることで子どもの進歩を認め、成長を促すことが大切だと説き、「自分が夢中になれることを見つけて未来の職業を想像し、それに必要な技能や知識をどこで学ぶかを考える。そうした進路の選択こそが、充実した人生につながるはず」と強調した。

会場では、雅楽師の東儀秀樹さんが「子どもの探究心を大切に育て育て」と題した特別講演を行ったほか、進学塾・SAPIX小学部による2015年度中学入試分析などの催しも行われた。

News



**メガ恐竜展2015**

「メガ恐竜展 2015——巨大化の謎にせまる——」(読売新聞社、幕張メッセ、中央宣伝企画主催)が千葉市の幕張メッセ国際展示場11ホールで7月18日から8月30日まで開催されます。この展覧会では、恐竜の中でも史上最大の陸上動物とされる「竜脚(りゅうきやく)類」にスポットを当てました。目玉となるのは、スペインで発見されたヨーロッパ最大のトゥリアサウルス=写真=。日本で初めて公開される半身の復元骨格は迫力満点で、他にもディプロドクス、エウヘロプスなどの竜脚類の全身骨格をはじめ、恐竜の実物化石や生体復元モデル、恐竜ロボットなど200点以上が展示されます。

7月の平日には、恐竜のウンチの化石プレゼント、8月の平日(10日間限定)にはアンモナイトの化石をプレゼントする特別企画もあります。

開場時間は午前9時半から午後5時まで。当日券は高校生以上2000円、4歳から中学生が1000円、前売券は高校生以上1600円、4歳から中学生が800円です。また、3歳以下は無料で、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。

詳細については、☎03・5777・8600までお問い合わせください。前売券は4月25日から販売されています。

**千葉私立中学進学フェア開催**

千葉県私立中学高等学校協会は6月21日(日)午前10時から午後4時まで、千葉県習志野市津田沼の千葉工業大津田沼キャンパスで「2015 千葉私立中学進学フェア」を開催します。参加校は読売教育ネットワーク参加校の聖徳大付属女子中、市川中、渋谷教育学園幕張中、昭和学院中、昭和学院秀英中、専修大松戸中、千葉明徳中、日出学園中、麗澤中の9校を含む24校です。各校の入試担当の教諭が、受験生とその保護者が知りたいこと、相談したいことについて丁寧に説明します。



また、教育コンサルタントの森上展安氏による講演も開かれます。

なお、入場は無料で、事前の予約は必要ありません。問い合わせは、同協会(☎043・241・7382)。

**日本語検定申し込み受付中**

日本語の総合的な運用能力を測る日本語検定(特定非営利活動法人日本語検定委員会主催、読売新聞社特別協賛、時事通信社、東京書籍協賛、文部科学省、日本商工会議所など後援)の次回検定試験が6月13日に実施されます。検定は年2回実施され、1級~7級の取得を目指し、小学生から社会人まで8万人以上が受験しています。日本語検定の級認定を入試時の加点や合否判定の優遇条件とする大学、専門学校は全国で200校にも上っています。

読売新聞専用の申込用紙を使えば、受験前に、過去問題1回分の検定問題と解答・解説の冊子がもらえます。締め切りは5月15日。読売新聞専用の申込用紙は、日本語検定委員会の専用ダイヤル(☎03・5390・7498)に電話し、「読売新聞を見た」と伝えれば郵送で届きます。読売教育ネットワーク(<http://kyoiku.yomiuri.co.jp>)エトセトラからも申し込みます。

**第64回全国小・中学校作文コンクール 作品集発売開始**

第64回全国小・中学校作文コンクールの作文優秀作品集が発刊されました。読売新聞のオンラインショップ「マルよ堂」で発売中です。また、47都道府県と海外部門の最優秀作品を集めた電子書籍版も配信されます。

作品集のご購入は、①マルよ堂サイト([www.yomiuri-eg.jp/](http://www.yomiuri-eg.jp/))にアクセス、②トップメニューの「その他」から「作文コンクール」を選択、③作品集一覧から「第64回全国小・中学校作文コンクール作文優秀作品集」を選択して、購入画面に進みます。作品集の価格は税込み1500円です。

また、電子書籍版の優秀作品集と、全国6ブロック(北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄・海外)の代表作を集めた作品集(電子書籍版)は、イーブックジャパン(<http://www.ebookjapan.jp/ejb/special/sakubun.asp>)のホームページで会員登録(無料)すれば、無料で配信を受けられます。



発売された作品集

**「編集手帳傑作選7」プレゼント**

読売新聞朝刊1面の人気コラム「編集手帳」をまとめた小冊子「編集手帳傑作選・第7号」(B6判、40ページ)を、希望者にプレゼントします。今回は、筆者の竹内政明論説委員が喜怒哀楽のテーマごとに選んだ28編が掲載されています。

郵送でのお申込み方法は右のとおり。ホームページ「ヨミウリ・オンライン」内にある「無料冊子」からも申し込みます。配送には約3週間かかります。

問い合わせは、ブランド企画部(☎03・3216・7103)へ。

**【同封するもの】**

- ①〒住所、氏名を書いた紙片(あて先として封筒に貼ります)
- ②冊子名、冊数、電話番号を書いた紙
- ③送料分の切手(1冊の場合は140円分)

**【送付先】〒100・8055(住所不要)**

読売新聞東京本社  
 ブランド企画部「編集手帳7」係



読売新聞に英語学習面

「えいご工房」登場

読売新聞は4月、英字紙ジャパン・ニュース（JN）と連動して、生きた英語を学べるページ「えいご工房」面（毎週金曜）を新設しました。JN語学学習面のエッセンス紹介や、読売新聞特派員の体験談に基づく英会話コーナーがあり、気軽に勉強できるのが特徴です。読者からは「週1ペースで英語に触れられるのがいい」「中学生の息子にも読ませたい」と歓迎する声が届いており、好評です。

よりすぐりのニュース記事を解説

過去1週間の英文記事からよりすぐりの1本を紹介する「ニュース・オブ・ザ・ウィーク」では、沖縄県の米海兵隊普天間飛行場の県内移設をめぐる記事を取り上げました。原文はもとより、そこに出てきた単語や言い回しの詳しい解説と和訳付きで、辞書がなくても自力で読み進められます。



最新のニュースを英語で学びたい人にうってつけの「えいご工房」、初回の紙面からその内容を紹介します！

「社説を読んでもよう」では、JNに掲載された読売新聞の社説の一部を日英対訳で掲載しました。社説の英訳を読みこなすのはなかなか手ごわいかもしれませんが、「えいご工房」で慣れていけば、全文を読む力も身につくでしょう。

毎週金曜日は楽しく英語学習

ここで英語に慣れた方には、JNの語学学習面「ラーニング・ラボ」(毎週金曜)にステップアップしてみたいかがでしょうか。そっくり抜き取って読める4ページには、読売新聞朝刊1面コラム「編集手帳」の英訳や、JNの前身デイリー・ヨミウリ時代から続く「英和・和英翻訳コンテスト」など充実した企画が山盛りです。ニュース記事は、えいご工房で取り上げた記事にさらに2本追加し、「ウィーク・イン・ア・ナットシェル」(1週間 早わかり)として詳しく紹介しています。映画のせりふを和訳付きで学んだり、奥深い文法の世界を堪能したりできるコーナーもあります。毎週金曜は「えいご工房」と「JNラーニング・ラボ」の日。週末の英語学習を豊かなものにしていただければと願っています。

「トイレが詰まりました」は英語でどう表現？

「特派員直伝とらべる英会話」では、市販の英会話本には載りそうもないけれども、海外で実際使うフレーズを紹介しました。この日取り上げたのは「トイレが詰まりました」。貞広貴志英字新聞部長が(clogged) (~が詰まっている)という表現をカイト特派員時代の苦労話を交えてつづったものです。このコーナーには、読売新聞のアプリ「ヨミとる」を起動したスマートフォンを使い、関連例文を自動読み上げ機能の音声で聞ける仕掛けもあります。3月まで毎週日曜、読売新聞社会面に掲載していた「Welcome 東京五輪」も、「えいご工房」に仲間入りしました。